

100

1

問一

イ 3点

問二

生身の他者として学生と出会いたいと思っており、学生が語る自分自身の言葉を聞くことこそが、コミュニケーションの中身にたどり着く方法だと考えているから。

問三

ア 3点

問四

日常生活において「類型的」知を用いて他者を理解すること、各場面では他者に対して適切にふるまうための「処方箋」的な知を用いること。

問五

特定の着目点以外の他者の違いや特徴を排して認識すること。

問六

- A
- エ
- B
- イ
- C
- ア
- D
- ウ

問七

(ア)	独特
(イ)	世界観
(ウ)	資質
(エ)	文言
(オ)	群

問八

エ 5点

受験番号

□	□	□	□
---	---	---	---

氏名

--	--

50

2

問一

ウ 4点

問二

ウ 4点

問三

それまでの経験から図書委員の仕事にやりがいを感じており、また、途中段階で止まっている仕事を軌道に乗せて後輩に引き渡したいと考えたから。

問四

- 一
- ア
- 二
- ウ
- 三
- エ
- 四
- イ
- 五
- オ

問五

予想外の推薦が出て、動揺している。

問六

委員を譲ってくれた亜矢への申し	訳なさと、澄香が自分の委員決定	を快く思っ	いから。
-----------------	-----------------	-------	------

問七

- A
- イ
- B
- ア
- C
- ウ
- D
- エ

問八

エ 5点

2点×4

1点×5

9点

7点

8点